

—関連施設だより—

全人的医療を目標にする精神神経科専門施設

落 裕美

医療法人社団良江会久留米ヶ丘病院

The Pursuit of Total Health Care for Patients with Mental Disorders

Hiromi Ochi

Kurumegaoka Mental Health Hospital

当院は東京都の北西部東久留米市で唯一の精神神経科専門施設です。

本館（管理部門、閉鎖病棟・昭和58年3月竣工）・第二（開放病棟・平成22年2月竣工）の2病棟で183床の入院患者さんと月間約1,000人の外来患者さんに対して、措置入院指示が可能な精神保健指定医資格を持つ医師6名（常勤5非常勤1）、看護師64名、を含む130人の職員で診療を行っております。

昭和33年3月の開設以来60年余りが過ぎ、当院の脇を流れる野火止用水路は清流を保っていますが都心に近い立地条件から市内は宅地化が進み、病院周辺は住宅と林に囲まれた環境となりました。

私は平成2年12月28日初代院長逝去に伴いこれを継いで現職となりました。

以来、今日まで地域に根ざす精神神経科病院の運営と診療に携わる中で、東久留米市近郊の市町村にある精神科施設との交流のみならず、多摩北部医療圏から隣接する埼玉県西部方面の基幹的な急性期医療施設と密に連携して精神神経科領域の患者さん受け入れを推進すると共に、急性期医療が必要となる当院入院患者さんの診療を円滑にお願いできる関係を築き上げて参りました。

関係医療機関は市中病院のみならず、大学付属病院など医育医療機関との関係も構築して参りました。貴大学はもとより、東邦大学附属大森医療センター、防衛医科大学校付属病院、埼玉医科大学付属病院・同国際医療センターとも患者さんのやり取りを継続しております。余談ながら埼玉医科大学の創設者は当院初代院長の実兄に当たり私達一族の出身地も大学所在地の毛呂山町です。

精神神経医療の根底にある現実には、この領域の患者さんは市中一般の医療施設で敬遠されがちであり、しばしば満足な診療を受けられないことです。患者さんとの意思疎通が困難であることも一因ではありますが、多くの場合



連絡先：落 裕美 〒203-0051 東京都東久留米市小山5-7-3 医療法人社団良江会久留米ヶ丘病院 理事長・院長
URL：https://kurumegaoka.com
E-mail：jimucho@kurumegaoka.com
Journal Website (https://www.nms.ac.jp/sh/jmanms/)

精神神経科領域の患者に対する先入観或いは固定観念がそうさせます。しかし、患者さんにも人間としての人格と尊厳があり必要十分な医療を受ける権利があり、このことは精神神経科医療者の大きなジレンマとなっております。私はこのような葛藤を少しでも和らげる努力を地域の医療連携を実践する中で続けて参りました。

しかし、器質的身体疾患に対して自らの施設での診療能力も重要です。ある程度の診断・治療能力を備えておくことは、患者さん自身にとっても有用であるだけでなく他施設に依頼するに当たってある程度正確な情報を提供する事で相互に信頼感が生まれるからです。

入院患者さんの器質的身体疾患は、脳梗塞、心筋梗塞、不整脈、肺炎、腹部消化器疾患等々に加えて、転倒による骨折や外科処置が必要となる外傷も少なくありません。認知症の方々は高齢者が大部分を占めますから、入院前から様々な合併症を抱えて医療機関を受診しています。

精神神経疾患の特性から自覚的な訴えの少ない患者さんの異常をいち早く把握することが重要となります。そのような観点から、16-multidetector CT scanner を含むレントゲン診断装置、心臓・腹部・血管に対する超音波診断検査機器を導入し、循環器専門医、外科専門医の協力を得て早期に異常を発見して更なる診療方針を立てるような体制を取っております。

昨年からは、出身大学で消化器内科専門医資格を取得後に精神科専門医となった私の長男が常勤医として参画してくれるようになり、入院患者さんの器質的身体疾患の診断管理は一層充実しております。

また、貴大学関連施設に加えて頂く中で、数年前より初期臨床研修医の精神神経科研修施設として研修医の受け入れを行っております。令和2年度は6人の研修医が各々1カ月間当院で研修されました。今後も積極的にこのようなプログラムに協力させて頂き充実した研修を受けて頂きたいと考えております。

私は昭和55年に大学を卒業後、直ちに当時廣瀬貞雄教授が主宰されていた日本医科大学精神神経科学教室に入りました。以後、現職に就くまでの10余年に亘り教室にお世話になり、現在は貴大学連携准教授を務めさせて頂いております。伝統ある日本医大精神神経科学教室は大久保善朗教授が長らく主宰されましたが、本年4月からは館野周先生が教授に就任なさります。館野先生は私が在職中からの同門で、当院で診療をお願いしたご縁もあり大変うれしく思っております。

これからも貴大学関連施設として貴大学の発展に微力ながら寄与致したいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

(受付：2021年3月11日)